



表紙・裏表紙(写真)

ちりめん本【本学 貴重書】

【表紙】「猿蟹合戦」388.1/C95/3

「ねずみの嫁入り」388.1/L59/1

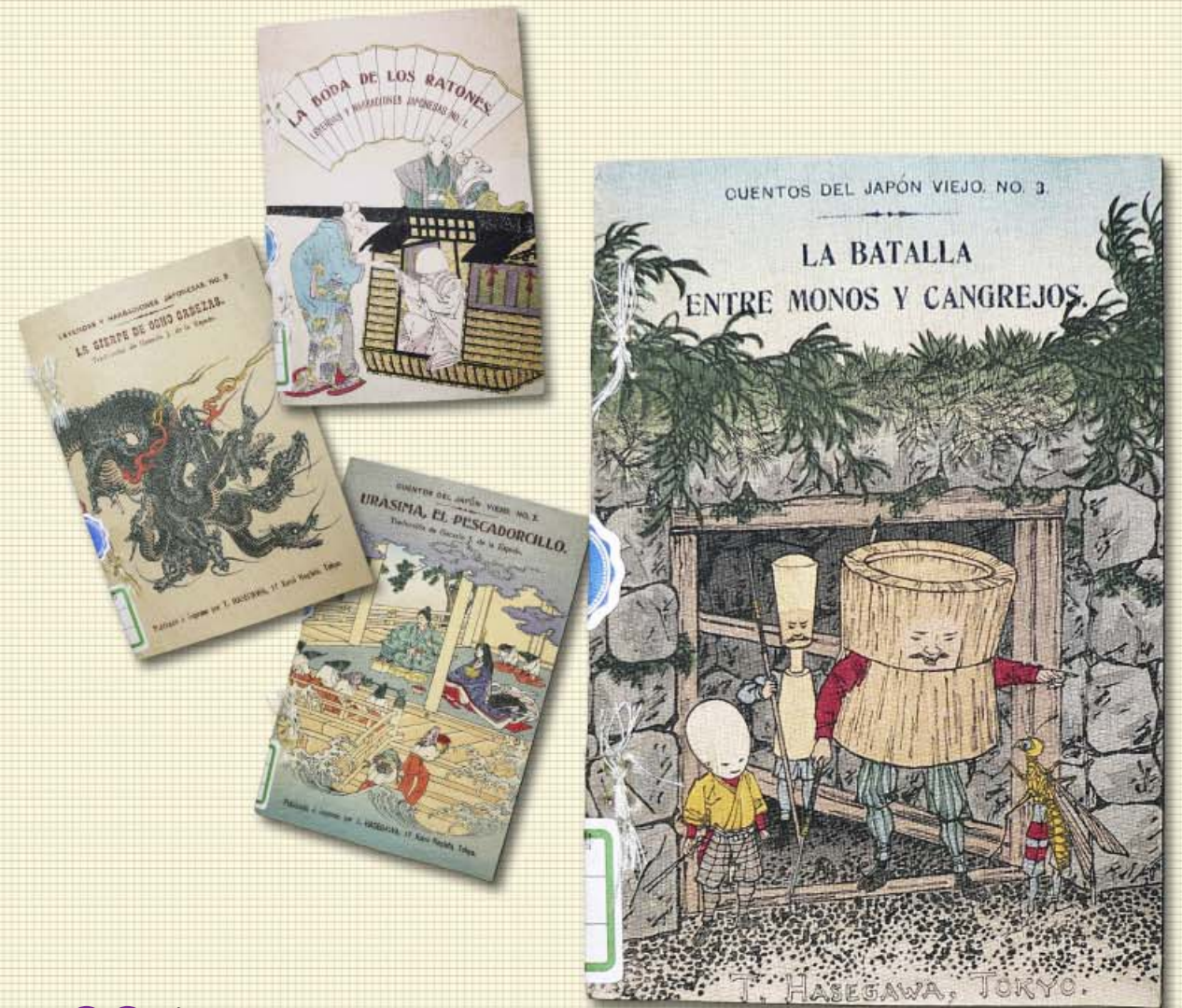
「八頭ノ大蛇」388.1/L59/2

「浦島」388.1/C95/7

【裏表紙】「竹箆(しつべい)太郎」388.1/L59/8

「ちりめん(縮緬)本」は明治中期から昭和初期にかけて日本国内で出版されました。和紙に印刷した後に絞って加工し和本に仕立てたもので、柔らかい手触りと、絹の縮緬布に似た風合いからそう呼ばれています。明治期に来日した外国人が帰国する際のお土産品として作られました。

長谷川武次郎は、明治18年から明治25年にかけて、日本の昔話を外国語に翻訳した『日本昔噺』シリーズを刊行しています。このシリーズは英語以外にドイツ語・フランス語・スペイン語・オランダ語・ポルトガル語などの言語に翻訳されています。本学所蔵のちりめん本はスペイン語です。



特集 資料紹介

- ・藤縄文庫
- ・狩野文庫マイクロフィルム

index

〈本学図書館の現状と未来〉	
図書館長 加茂直樹教授	1
〈特集 資料紹介〉	
藤縄文庫に触れてみよう	3
「東北大学附属図書館所蔵狩野文庫マイクロ版集成」	6
〈図書館からのご案内〉	
図書館資料特別展観	8
絵本・新着本案内コーナー	10
個人文庫・コレクション	12
分館資料展示	13
〈コラム〉	
増田信一教授	14
〈図書館からのお知らせ〉	
情報探索講習会	17
〈図書館サービスの利用に関するアンケート結果〉	18

本学図書館の現状と未来

図書館長 加茂直樹

まず京都女子大学・京都女子大学短期大学部図書館の現状を手短かに概観しよう。本学は女子高等教育機関として長い歴史と実績をもつが、図書館も絶えざる内容的な充実によって教育・研究の中心としての重要な役割を担ってきた。昨年から行われている大学基準協会による外部評価でも、年間の図書購入費用総額、増加図書数、蔵書の質と量などについて、肯定的な判定を得ている。だが、本学図書館には次のような問題点がある。①本館と分館に分かれていて、一般的、共通的な図書の利用に不便があること。②本館・分館ともに独立の建物でないので、アクセスや管理の面で難点を抱えていること。③閲覧室等の広さが十分でないこと。④書庫スペースが不足しており、図書の一部を学内倉庫と外部貸倉庫に保管していること。これらの問題点は、いずれも現在の図書館の立地条件と不可分に結びついており、その解決のためには、以前から指摘されているように、別の場所に独立の建物として新図書館を建てること

必要である。

だが、新しい図書館の建設にあたっては、さらに考慮すべきことがある。社会全体の情報化が進展する中で、情報伝達・処理手段の多様化・迅速化とそれともなう情報量の爆発的な増大によって、教育と研究のあり方も大きく変化してきている。このような状況に対応するためには、従来の図書館のイメージにとらわれず、抜本的に新しい仕方で新図書館を構想することが必要である。前図書館長の古賀秀男教授を代表とする「新図書館構想研究会」では、平成16年度末に京阪神、名古屋、東京地区の比較的最近に建設されたいくつかの大学図書館について実地視察を行ったが、その多くにおいて、情報化時代に対応するための新しい発想や機能が盛り込まれていることが印象的であった。本学においても、新図書館は「総合学術情報棟」という名称で準備が進められている。

もちろん、新奇さを求めるあまり、学術研究に必要な図書をすべて常備して学

藤縄文庫に触れてみよう

藤縄文庫には、2000年10月に亡くなられた、本学史学科の藤縄謙三教授の御蔵書が収められています。千艸夫人の御厚意によって本学に寄贈され、洋書は1840冊、和書は1856冊と膨大な量に上ります。古賀秀男元図書館長の御尽力で洋書目録も昨春に完成し、コンピュータによる検索も、本学図書館のサイトで可能です。

藤縄先生の御専門は古代ギリシア史で、大著『歴史の父ヘロドトス』(本学図書館に所蔵されています)をはじめとして、沢山の優れた御論考を残されました。本文庫の書物はそうした先生の御研究の源泉であり、大変貴重なものです。

先生は、古代ギリシア史だけではなく、ローマ史や中世史といった西洋史の他分野はもちろんのこと、東洋や日本へも、深い関心を寄せておられました。たとえば前述の『ヘロドトス』最終章では司馬遷とヘロドトスの違いについて言及しておられますし、ギリシア文化と日本文化を比較された御著書もあります。また、史学科発行の学術雑誌『史窓』に書かれた二つの御論文では、オリヴや馬、ロバといった、我々に馴染みのある存在の文化的位置づけについて考察されています。本文庫にも、先生のそうした深い学識が反映されており、様々な分野にわたる文献が所蔵されています。史学科以外の学生も、自分の研究を進める上で重

要な文献を多数発見することができるでしょう。

文庫の核を成しているのは、古代ギリシアの歴史家ヘロドトスやツキュディデスらに関する校訂本や研究書です(写真1)。この中には、古



写真1

書として大変貴重なものもあります。写真2は、16世紀に出版された、ヒュトレウス『ヘロドトスおよびツキュディデスの年代学』です。これは、ヘロドトスとツキュディデスの史書に関する解説に、その後のローマ帝国やキリスト教会の歴史を著者が独自に付け加えた書物です。写真3も同じく16世紀の、人文主義者ステファヌス



写真2



写真3

生と教職員に活用してもらおうという大学図書館本来の役割を忘れるようなことがあってはならない。ただ、特に現代的な課題の研究においては、関連する刊行物が氾濫していることもあって、購入の時点では、それが本当に必要な学術資料であるか否かの評価が難しい場合がある。しかも、刊行されて間もない時期に購入しておかないと、入手困難になる書物も多くある。だから、十分に選別ができず、玉石混交のまま多数の書物を購入するが、年月を経て、その中にあまり価値がないもの、ほとんど利用されないものが含まれていることがわかる、ということが起こりうる。このような事態は、現代的なテーマの研究においては、ある程度まで不可避と思われる。それらを含めてすべての図書・雑誌等を保存しておくことができれば、問題は無いのだが、収納スペースには限りがある。だから、これからの図書館にとっては、資料の収集だけでなく、廃棄のシステムを作ることも重要になっているのである。

最後に、現代の大学は地域社会に対し

てその特質を生かしてさまざまな学術的、文化的貢献をすることが期待されている。だが、大学基準協会が指摘するように、本学の場合には、安全面の問題などがあって、図書館を含めて施設の地域への開放はあまり行われていない。図書館を市民に一般的に開放するのを妨げているのは、先に指摘したアクセスおよび管理上の問題であり、これは新しい図書館の開設によって解決可能と思われる。さらに言えば、新図書館棟には、公開講座などに使えるような講堂あるいは講義室を設け、一般市民が気軽に利用できるような設備を整えることが望ましい。これによってこの建物は京都女子学園の顔として、また地域社会に貢献するためのセンターとしての役割を果たすことが期待されると考える。

によるヘロドトス、ツキュディデスのラテン語訳です。両書ともにルネサンス期のヘロドトス評価を変化させた画期的作品で、先生の御著書でも詳しく論じられていますが、その当時に印刷された実物を他所で見るとはほとんどできません。現在は他の2冊の古書(写真4~6)とともに文庫そのものからは切り離されて貴重書収蔵庫に収納されており、閲覧には特別の許可が必要ですが、本来は博物館の陳列ケースの中に収められていても不思議のないもので、もし機会があれば、御覧になることを勧めます。



写真4



写真5



写真6

もちろん、現代に発行された校訂本も多数あります。写真7は、トイブナー古典叢書のツキュディデスの校訂本です。これには、先生御自身がびっしりと書き込みをされています。実は、こうした直筆の書き込みこそが、本文庫の

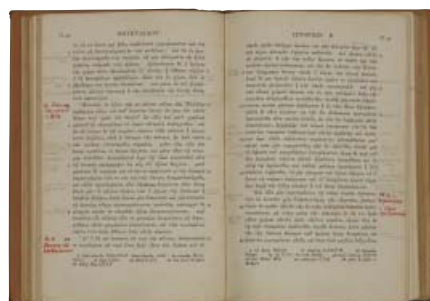


写真7

最大の特徴です。私たちは、これを通して、藤縄先生が50年にわたる研究生活の中で、どのような思考をされたのか、その御研鑽の様子を追体験することができるのです。偉大な学者の頭脳に触れることができる、といっても良いでしょう。

私は大学生の時に先生の御指導を受けたのですが、本文庫の前に立つと、先生の御発言がまざまざと脳裏に甦ってきます。古代ギリシアの哲学者アリストテレスが著した『アテナイ人の国制』というギリシア語の書物を、ゼミで講読していたことがありますが。その時に先生が使っておられた註釈書の一つが写真8です。

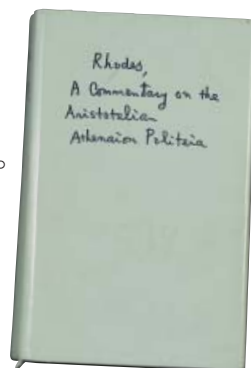


写真8

私は授業が始まるかなり前に先生のお部屋に押しかけ、話を聞いていただくことが度々あったのですが、そういう時に先生は、雑談風に色々なことを助言してくださいました。たとえば、古代ローマ帝国を卒業論文で扱いたいという私に対して、先生は、「今、私はヨセフスを読んでいるのですが、ローマ時代の文化や社会がほんとうによく分かりますなあ」とおっしゃられました。ヨセフスというのは、紀元1世紀に生きたユダヤ人歴史家で、ギリシア語の『ユダヤ古代誌』などの著作があります。ローマ帝国の公用語であるラテン語の文献にはばかり関心が向いていた私は、そのお言葉を聴き、歴史学の奥深さを感じたような気がして、はっとしたものです。そのヨセフスも、藤縄文庫には収められています。本文庫中のかなりの蔵書には、先生が手ずから作られたカヴァーがかかっている、使用されていた状態のまま保存してあります。写真9もそうした一つなのですが、カヴァー全面に先生のメモが整然と書き入れられているのが分かります。



写真9

他にも、ギリシア旅行中に購入された切符が葉として挿まれている本などもあり、書庫に入って藤縄文庫の書架にいと、あの懐かしい、先生の研究室で文献を探しているような錯覚を覚えるのです。学生のみなさんは書庫には入ることはできませんが、図書館カウンターで手続きをしてもらえば、閲覧室にて自由に読むことができます。もし運が良ければ、上でご紹介したような、藤縄先生の御思索の一端に触れることのできる、様々な本たちに出会えるでしょう。このような得がたい経験ができるチャンスは滅多にありません。ぜひ手に取って、碩学の書齋を感じてください。

文学部助教授 桑山 由文



口絵



表紙

トログス著 ユスティヌス抄録『フィリップス史』の18世紀版とその口絵

「東北大学附属図書館所蔵狩野文庫マイクロ版集成」(分館所蔵)

京都女子大学図書館で多数所蔵しているマイクロフィルムの中から、今回は「古典の百科、江戸学の宝庫」として知られる「東北大学附属図書館所蔵狩野文庫マイクロ版集成」をご紹介します。

東北大学図書館所蔵貴重書「狩野文庫」のマイクロフィルム版

「狩野文庫」は、狩野亨吉博士が生涯かけて収集した和漢古書108,000冊余の一大集成であり、有数の和漢古典の大コレクションである。全ての領域を網羅した百科全書の態をなしており、中には国宝指定を受けた貴重本なども含まれている。

和書の線装本(糸で綴じた本)については平成3年からマイクロフィルム化が進められ、平成5年に貴重書を含む約55,000冊分のマイクロフィルムによる利用が可能となった。

(参考:丸善株式会社 製品パンフレット)

マイクロフィルムは約2300リール(巻)作製されており、資料の分野によって第1門から第10門に分類されている。

第1門	総記・雑書	第6門	法律・政治・経済
第2門	哲学・宗教・教育	第7門	数学
第3門	歴史・地理	第8門	理学
第4門	語学・文学	第9門	医学
第5門	美術・工芸・技芸	第10門	工学・兵学



第1門から第10門に分類されたマイクロフィルムは更に内容によって細かく分類され、分野毎の通し番号(リールNo.)が付されている。

目録「東北大学附属図書館所蔵狩野文庫目録和書之部」(マイクロフィルムになっている資料名とそのリールNo.の一覧)が作成されており、求める資料が狩野文庫のマイクロフィルムに含まれているかどうか探すことが出来る。

〈目録は分館参考図書コーナーにあり・請求記号081/Ka58〉

膨大な数のマイクロフィルムのうち、現在、京都女子大学図書館では、以下の分野のマイクロフィルムを所蔵しています。

[京都女子大学図書館所蔵分]

第1門 総記・雑書	AC 故事名数	第4門 語学・文学	DN 別集(文学・漢文学)	
第2門 哲学・宗教・教育	BH 仏教附道教	第5門 美術・工芸・技芸	DJ 滑稽文学附怪異文学(文学)	
	BAA 教学総雑		DI 戯曲演劇	
	BC 儒学		DDA 和漢文学総雑(文学)	
	BD 経書(儒学)		DF 和歌附連歌	
	BE 四書(儒学)		DG 俳諧・俳文	
	BF 諸子(儒学)		ED 画	
	BG 儒家(儒学)		EFA 音楽総雑	
	BB 神祇・神道・古道		EG 古代楽	
	BL 耶蘇教		EH 俗楽	
	BI 各宗(仏教)		EIA 支那楽	
BK 術数	EK 技芸			
BM 教育	EC 書			
第3門 歴史・地理	CC 支那史・東洋各国史	第6門 法律・政治・経済	EAA 美術・工芸総雑	
	CB 国史(歴史)		FA 儀礼	
第4門 語学・文学	DKA 漢文学総雑(文学・漢文学)	第7門 数学	FB 法律	
	DL 詩文話・作法附尺牘・啓箋		GE 曆象附時計	
	DO 詞曲小説(文学・漢文学)		第9門 医学	IAA 医学総雑
	DH 散文			IB 漢方
	DA 国語(語学)			ICA 日本古医方
	DB 支那語(語学)			
	DM 総集(文学・漢文学)			

※アルファベットはリールNo.

さらに「狩野文庫マイクロ版集成 補遺版」の一部を購入、順次配架予定です。

※利用したいマイクロフィルムを京都女子大学図書館が所蔵しているかどうか、確認する必要があります。詳しくはカウンターまでお尋ねください。

貴重な資料を身近に閲覧することができます。是非、皆さんの研究にお役立てください。

図書館資料特別展観

第6回図書館資料特別展観を実施しました

京都女子大学図書館では、所蔵する貴重資料を広く学内外に公開する特別展観を行っています。平成18年度には「鴨東散華(おうとうさんげ) 壹」と題し、“名所図会と絵はがきで見る京都散策”をテーマに2週間にわたり展示を行い、学内外より多数の方々にご来場いただきました。(来場者数413名)

第6回図書館資料特別展観

「鴨東散華(おうとうさんげ) 壹」—名所図会と絵はがきで見る京都散策—
平成18年11月10日～11月24日 建学記念館「錦華殿」にて実施

【展示構成】

〈名所案内記案内〉

- ・各書所収京都地誌一覧・太平記
- ・京都名所図会 ・ケンペル『日本誌』
- ・大仏木組之真図 ・京大絵図 ほか

〈京女界隈を歩こう〉

- (1) エリアわけ
- (2) 三十三間堂まわり・七条大橋 ・法住寺 ほか
- (3) 大仏まわり ・方広寺大仏殿一付大仏炎上 ・豊国神社 ・大仏餅
・京都国立博物館 ほか
- (4) 京女まわり ・渋谷道 ・小松谷正林寺 ・佐藤継信・忠信の塚
・阿弥陀の峰 ・新日吉神社一付飛梅天満宮 ・妙法院
・智積院一付地藏山 ほか
- (5) 絵はがき拾遺

展示は本学近辺に対象区域を限定し、そこに多く散在する名所旧跡にちなんだ地誌類・地図・絵はがきを紹介しました。
来場者のかたにお願いしたアンケートでは、最も印象に残ったものは

第1位……ケンペル『日本誌』

第2位……京都名所図会

第3位……京大絵図

となりました。第1位のケンペル「日本誌」は他を引き離して圧倒的な印象を与えていました。外国人から見た清水寺や三十三間堂はかなり興味深かったようです。



ケンペル『日本誌』

三十三間堂や清水寺が西洋的でももしろかった。西洋人はお寺を設計図のように書くと思った。(アンケートより)

方広寺大仏の焼失した写真。昭和まであったのかと驚いた。(アンケートより)

身近なところについて書かれたものが多く所蔵されていることを知りうれしかった。(アンケートより)

展示風景



平成19年度も特別展観を実施する予定です。京都女子大学図書館の貴重資料を目にするまたとない機会です。展観実施については図書館ホームページやポスター等でお知らせしていきますので是非ご覧ください。

図書館からのご案内

絵本・新着本案内コーナー

絵本・新着本を案内するコーナーを設けています！
新しい本もどんどん入ってきますので、
是非一度ご覧ください。
興味を引かれる本が見つかるかもしれませんよ。

【本館“えほん案内”コーナー】

本館で所蔵している絵本をテーマを決めて毎回ご案内しています。

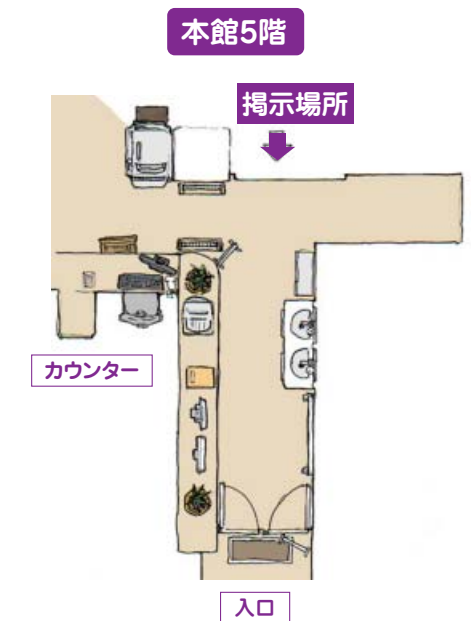
本館 掲示風景



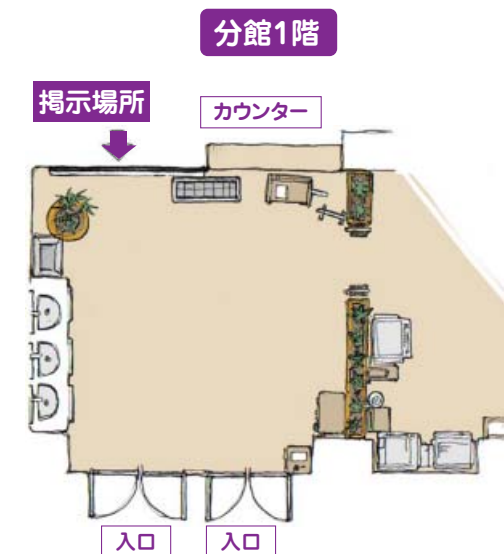
【本館・分館 新着本案内コーナー】

本館・分館に新しく入った本の一部をご案内しています。

本館 掲示風景



分館 掲示風景



図書館からのご案内

個人文庫・コレクション

京都女子大学図書館にある、個人文庫・コレクションの紹介です。
図書館本館・分館の閉架書庫に配架しており、貸出・複写はできません。館内でのみの閲覧となります。
利用を希望する場合はカウンターへ申し出てください。

○個人文庫

元本学教授等の蔵書を、本学が譲り受けて所蔵しているものです。

文庫名	旧蔵者名	蔵書内容	所蔵
吉澤文庫	吉澤 義則 (1876-1954)	平安時代の文学を中心に国語国文学関係の資料	分館
安藤文庫	安藤 勝一郎 (1879-1967)	19世紀末の英文学に関する資料	
羽溪文庫	羽溪 了諦 (1883-1974)	インド学・仏教学・東洋史学関係の資料	
三木文庫	三木 幸信 (1900-1990)	江戸時代の国語学に関する資料	
高畑文庫	高畑 彦次郎 (1883-1945)	漢籍と民国以後の資料が中心	
田村文庫	田村 實造 (1904-1999)	東洋史関係、特に東アジア・中央アジア(蒙古関係)を中心とする資料	
谷山文庫	谷山 茂 (1910-1994)	中世の和歌に関する資料 (古今集、千載集、新古今集が中心)	
阪倉文庫	阪倉 篤義 (1917-1994)	中世・近世の国文学、国語学に関する資料	
藤縄文庫	藤縄 謙三 (1929-2000)	古代ギリシャ史を中心とした資料	
藤原文庫	藤原 恵 (1907-1990)	マスコミ関係の資料	本館

○コレクション

図書館が永年にわたり、研究の対象として収集してきた図書資料です。

コレクション名	コレクションの内容	所蔵
九條武子コレクション	100点を超える九條武子女史の歌集、絵画、書簡	分館
Dylan Thomas collection	イギリスの詩人 Dylan Thomasの原書、研究書	
Jonas Family collection	Jonas Familyが収集した19世紀末～20世紀初頭の英国さし絵入本を中心とした稀覯書(美術的に装丁のきれいなもの)	
ヨーロッパ教育改革史関係コレクション	17世紀～19世紀のヨーロッパを中心とした教育制度及び教育改革に関するコレクション 16世紀の貴重書も含む	本館

分館ミニ展示

図書館分館で展示を実施しました

図書館分館では平成18年度より“京都女子大学図書館分館 ミニ展示”を行っています。京都女子大学図書館で所蔵している様々な資料を皆さんに知って頂きたい、という企画のもと、毎回テーマを決めて資料を展示しています。企画外展も含め、年に3回程度計画しています。

第一回資料展示 女人私家集六種の花

(平成18年6月19日～6月30日 実施)

テーマ《京にゆかりのある女流歌人》

歌はもちろん、教育、福祉、研究、芸術など様々な分野においても活躍された五人の女性(大田垣おおたがきれんげつ、くじょうたけこ、よさのあきこ、ぎおんのゆり、さいしよあつこ)の私歌集を紹介しました。

第二回資料展示 国学者の系譜 「国学の四大人」

—春満・真淵・宣長・篤胤—

(平成18年10月16日～10月27日 実施)

テーマ《国学者の系譜》

「国学の四大人」と呼ばれる四人の高名な国学者(かたあすまろ、かものまぶち、もとおりのなが、ひらたあつたね)の著作および掛軸を紹介しました。

第二回資料展示風景



各回ともに展示資料案内冊子や関連資料一覧表、展示補助資料を作成しています。
また同時にアンケートも実施しており、みなさんから寄せられたご意見・ご感想を参考に、より良い展示を目指しています。

第三回資料展示は「表紙絵の変遷」をテーマに展示を計画中です。
ポスター・冊子・図書館ホームページにてご案内しますので、是非こちらもご期待ください。

コラム

「レポートの書き方を学ぶ意味」

発達教育学部教授 増田信一

「ユーモアの発見」
長 新次著
(081/1952/81)



「あなたは何のために読書するのですか」という問いかけには、人によって、さまざまな答えが出てきます。多くは「知識を得るためです」でしょう。私はさらに「知識を得てどうするのですか」と追及していきます。つまるところ、「生活するため」とか「生きるため」になりそうです。

学生たちに、これまでの読書について自己評価させると、「これまでは読書することについて、あまり意識していなかった」というところにおちつきます。小学生だったら「楽しむため」が中心で、中学生や高校生になると「調べるため」になり、大学生では「人生をより有意義に過ごすため」となるでしょうか。しかし、実際には大学生がそのような読書をしているわけではなく、もっと読書力の発達が遅れているようです。

私は国語科教育を担当して、一つの

学期にレポートを三回書かせています。小レポートは「岩波ジュニア新書の一冊を選択してその要約400字」「意見400字」です。この段階では「意見」と「感想」との区別を明確に出来るかを評価のポイントとします。中レポートは「新書の要約400字」「自分の意見800字」です。評価のポイントは価値のある意見、できれば論説が書けているか否かがポイントになります。期末の大レポートは「6400字」です。テキストの15の章から一つの章を選び、その中からテーマをしぼります。構成は「1. テーマは何か」「2. なぜこのテーマを選んだのか」「3. 改革を必要とする問題点」「4. 問題点に対する具体的な提案」です。この課題は学期の授業が半分終わったところで提示し、学期末に提出させます。

提出されたレポートは三つのグルー

「手塚治虫がねがったこと」
斎藤 次郎著
(081/1952/163)



「自然観察12ヵ月」
海野 和男編著
(081/1952/71)



「新聞の読みかた」
岸本 重陳著
(081/1952/200)



プに分かれました。1は具体的な資料は使わずに、抽象論や自分の小学生時代の学習体験をとりとめなく綴ったもの。2はテキストに登場している問題点について自分の体験を加えて、解説的に述べたもの。3は数種類の資料を活用して、自分の提案を具体化したもので、提案の内容が妥当で説得力のあるもの。この三つのタイプのレポートで、内容的により望ましいのは、どれかお分かりでしょうか。調べ学習においては、より適切な資料を探し出して活用することが大切なポイントになるのです。今回の課題の提示に際しては、資料を使うか否かは各自の判断に任せました。各自で課題の字数「6400字」という多さから判断してほしいと私は考えたのです。

レポートの提出時に、中学や高校でのレポート作成の経験を聞いたら、あまり経験しなかったという者が三割もいて、

この機会に自分で基礎技能について学習してほしいと強調しました。大学ではレポートの提出がさかんですから、自学で獲得するようにしてください。

優れたレポートを書くためには、図書館の資料を有効に活用することが不可欠なのです。それも、自分が予定したテーマに対して、賛成する立場の資料と対立する資料とを比較検討して、自分の考えを構成していくことが大切です。その資料が適切か不十分なものであるかは、自分の考えと比較して決めるしかないので。

このような作業に際しては、これまでの長い間に研究し蓄積してきた、自分自身の観点がしっかりしていなくてはなりません。レポートには、このような実力が表われるのです。読書は好きでたくさんの本を読んできたし、図書館にはよく足を運んできたが、レポート

情報探索講習会

「読みたい本があるのに、どこにあるのかわからない」
 図書館に来てみたものの、目的の本を見付ける事が出来ないまま時間ばかりが過ぎてしまう。知りたい内容がどの本に載っているのかわからない。そういった経験はありませんか？
 図書館では「情報探索講習会」を行い、京都女子大学図書館にある資料の探し方をわかりやすくご案内しています。
 新入生の方は勿論、現在在学中の方までご自由に参加して頂けますので、ご活用ください。

レポート・論文作成のための
情報探索講習会
 実施日 5月23日(火) ~ 5月26日(金)
※全日新で、日に内容が異なります
 時間 16:30 ~ (1時間程度)
 場所 5校舎 S110教室

レポート・論文作成で必要な資料の集め方の講習会を行います

京都女子大学図書館にある資料の探し方
 電子データベース・紙質検索・統計データベースなどのデータベース利用法

実際にパソコンで検索しながら、図書館スタッフが、詳しくご説明いたします。

※お申し込みは不要です。参加費も、いりません。
 ※4校舎内図書館員です。ご参加の際は、ご所属の図書館までご連絡ください。

《2006年度講習会実施一覧》

データベース利用ガイダンス:情報探索講習会 (基礎編)	概要:5月(15分間程度)
基本的な雑誌記事・論文の探し方などの案内	
情報探索講習会	概要:5月(1時間程度)
パソコンを使い、京都女子大学図書館にある資料や統計データの探し方、データベース利用法などの説明	
情報探索講習会	概要:6月(1時間程度)
パソコンを使い、レポートのテーマの探し方、資料が京都女子大学図書館にない場合の入手方法などの説明	

今後文献をさがす時の参考になった(3回生)

今まで知らなかった検索の仕方が学べて良かったです(2回生)

アンケートより

実際に操作ができると理解しやすい(1回生)

講習会が4日も続いて開かれると、都合を合わせやすく参加しやすかったので、とても良かったです(4回生)

4月には新入生の皆さんを対象に、昼休みに15分程度館内の案内をする「図書館利用ガイダンス」、随時お申込に応じて、講義時間内での「図書館利用ガイダンス・ゼミ講習会」なども行っています。

「情報探索講習会」「図書館利用ガイダンス」実施のご案内は各館掲示板や京都女子大学図書館ホームページ(<http://www.kyoto-wu.ac.jp/library/index.htm>)、小冊子の配布などで行っております。2007年度も講習会を予定していますので、皆さん是非ご参加ください。

「新聞記者の仕事」
 坂本 龍彦 著
 生井久美子 (081/1952/284)



「東京が燃えた日」
 早乙女勝元著
 (081/1952/5)



「詩のころを讀む」
 茨木のり子著
 (081/1952/9)



の書き方については特に学んだことはなかったという学生は、是非、自力でこの学力を身につけてください。

最近、日本人の学力低下、読解力不足が話題になりますが、その根本的な原因の一つに「レポートの書き方を知らないこと」があることを自覚して、自力でマスターすることをお勧めします。

日本の学校教育では、「テストに出題されること以外は軽視する」という困った通念がまかり通ってきました。その元凶は文科省であり、学校教育に関する人々の不勉強があります。

例を一つあげます。学校図書館法は昭和28年に成立したものの、司書教諭が法的に配置されたのは平成15年度です。しかも、ほとんどの司書教諭は教科の授業を大量に持たされ、学級担任をさせられる人も多いのです。〈学校図書館は貸本屋ではない〉ことは、誰

しも認めているのに、図書館教育はきわめて不十分です。自分で自発的に獲得していくしかないのです。がんばってください。

放送大学客員教授
 日本学校図書館学会副会長

「ことばの力」
 川崎 洋著
 (081/1952/33)



掲載は「岩波ジュニア新書」
 (岩波書店)
 増田先生オススメの
 8冊です

図書館サービスの利用に関するアンケート結果

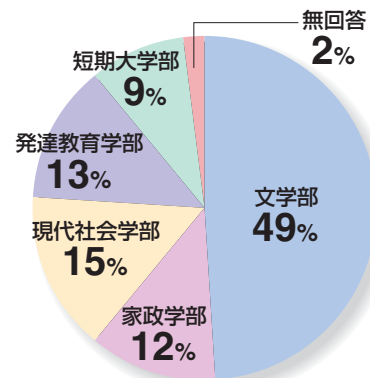
京都女子大学図書館では、図書館サービスの利用状況を調査するアンケートを実施しました。

実施期間	2006年10月16日～10月28日
配布方法	貸出、相互利用などカウンターでのサービスを受ける方にアンケートを依頼。図書館入口と館内にアンケート記入台を設置。
回収方法	アンケート記入台に回収箱を設置。
有効回答数	291件

アンケート結果のグラフから見る利用状況は次のとおりです。

■アンケート分析

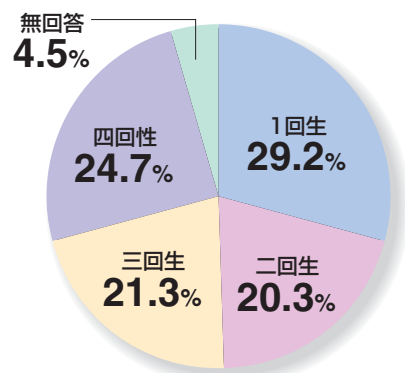
①学部別利用状況



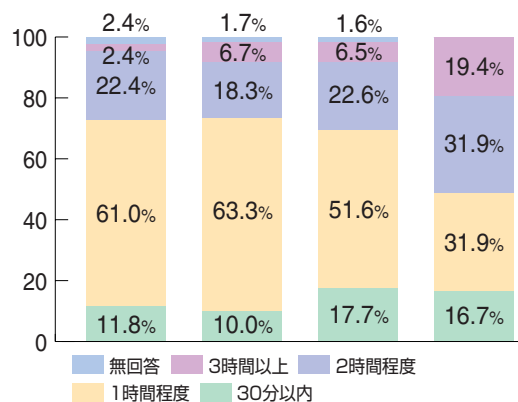
各学部とも学部の構成人数とほぼ同じ割合ですが、文学部の学生の利用が少し多いようです。

どの回生もほぼ同じ割合で利用していることがわかります。しかし、利用時間で見ると、上回生になるほど図書館での滞在時間が長いことがわかります。

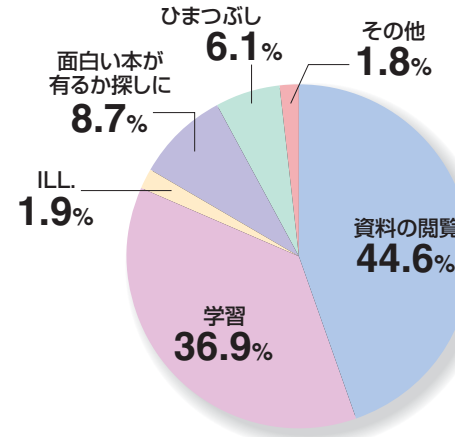
②回生別利用状況



回生別 利用時間



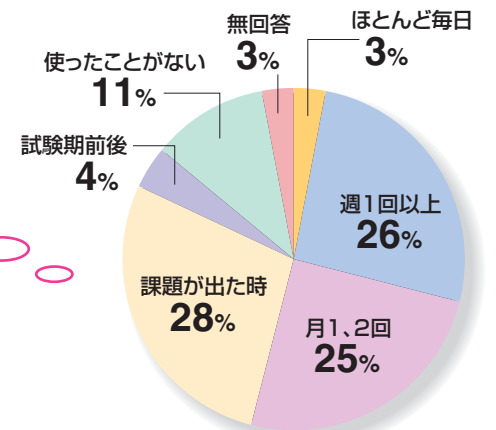
③図書館の利用目的



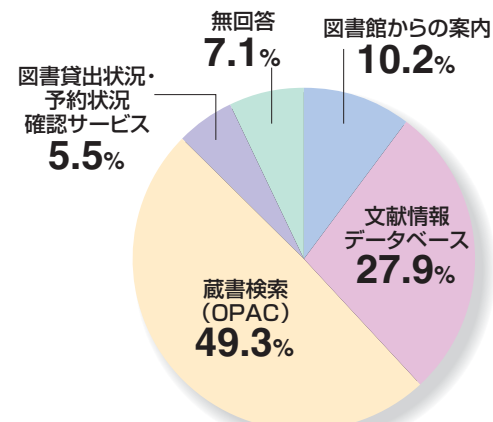
ほとんどの利用者が資料の利用や学習のために来館されています。

④図書館ホームページ利用頻度

ほとんどの人が図書館ホームページを利用しているようです。図書館ホームページでよく使用する項目は、蔵書検索(OPAC)です。文献情報データベースも使用されています。



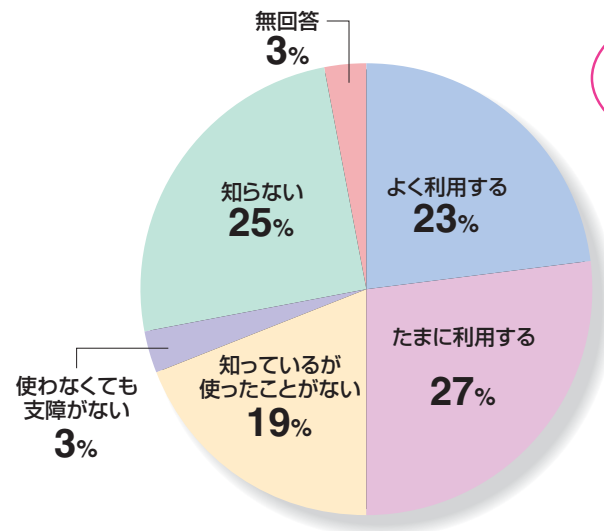
図書館ホームページ利用項目



➡ 図書館ホームページ

<http://www.kyoto-wu.ac.jp/library/index.htm>
各種データベースが利用できます。図書館からのお知らせも掲載しています。

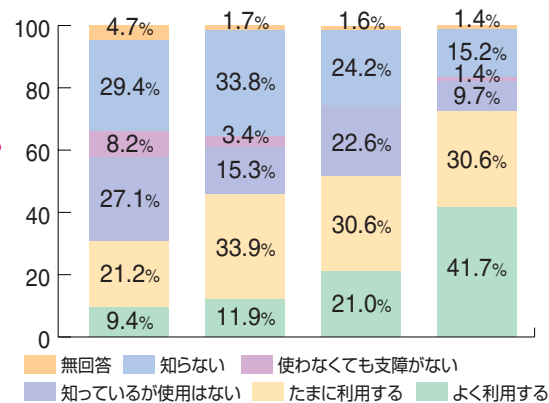
⑤ 文献情報データベースの利用頻度



利用する人と利用していない人がほぼ同数です。しかし、回生別に見ると、上回生になるにしたがって利用率が高くなっていることがわかります。

ゼミの課題や卒論での文献収集に、文献情報データベースが必要になってくるでしょう。

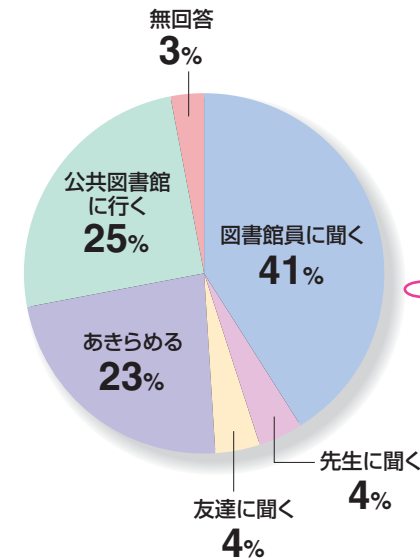
回生別 文献情報データベース利用頻度



「検索ガイド」

各種データベースの説明など、情報探索についてわかりやすく解説しています。

⑥ 図書館で資料が見つからない場合

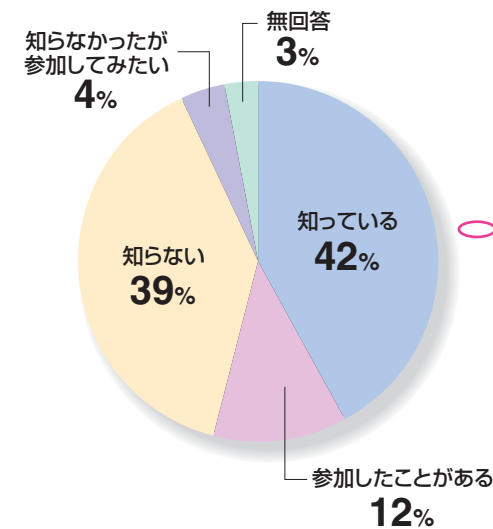


あきらめてしまう人もいますが、図書館員は資料に関するご相談もお受けしております。お気軽にカウンターまでお尋ねください。

「図書館案内」

レファレンスサービスなど、図書館で受けられるサービスについての案内も掲載されています。

⑦ 講習会の開催を知っていますか



知らなかった人が半数近くいました。図書館利用方法・本の探し方・文献情報データベースの使い方など、様々な講習会を開催しています。是非ご参加ください。

p.17参照

講習会を毎年開催しています

ご協力いただいたアンケート結果は今後の図書館運営に役立てていきたいと考えています